

## 卒業生向け追跡調査 (SSH研究開発実施報告書 II期 第1年次より)

調査 R6年度…R6.12～R7.1 回答数43

G-1 現在の所属（卒業後4年）で取り組んでいる研究があれば、研究テーマや概要を簡潔に記入してください。

年度	回答
R6	植物におけるDNA損傷応答機構の解明／関東地方で夏の午後に発生する雷雨の、雷活動と豪雨の関係性・北半球の気象シミュレーション実験研究／画像解析による鉄スクラップの不純物元素濃度推定／炭化水素系熱硬化性樹脂の高温環境下における絶縁性能の評価／チュー リング不安定性／光化学反応における磁場効果測定／自己生成視覚刺激における感覚減衰の時間特性に関する研究／光切断性蛍光プローブによる多成分酵素活性同時解析手法の構築(一部抜粋)

G-2 次の項目について、「高校で取り組んでいると大学で役に立つ」と思いますか。回答してください。

1 PowerPointなどでポスターやプレゼン資料を作る活動

年度	とても	わりと	あまり	ほとんど	回答数
R6	61.9%	28.6%	7.1%	2.4%	42

3 PCを活用してレポートを作成する活動

年度	とても	わりと	あまり	ほとんど	回答数
R6	74.4%	23.3%	2.3%	0.0%	43

5 文献の引用、資料の掲載方法など研究に関する倫理

年度	とても	わりと	あまり	ほとんど	回答数
R6	62.8%	20.9%	16.3%	0.0%	43

7 論文の講読（日本語による）

年度	とても	わりと	あまり	ほとんど	回答数
R6	41.9%	32.6%	23.3%	2.3%	43

9 研究に関する英語の活用（口頭発表）

年度	とても	わりと	あまり	ほとんど	回答数
R6	20.9%	20.9%	48.8%	9.3%	43

11 海外での活動（海外研修など）

年度	とても	わりと	あまり	ほとんど	回答数
R6	18.6%	30.2%	34.9%	16.3%	43

上記について、現在の所属で「必要と感じた具体的な場面」があった場合はご記入ください。

年度	回答
R6	PowerPointやExcelの使い方について高校生である程度習得していると、課題や研究でリードできる/高校時代から発表に慣れていたので、大学で企業との共同ワークショップで役員の前で発表する場面でも物怖じせずできている/人前で話すスキル・学習概要を短時間でまとめ書類を作成する作業は、ゼミや授業内の発表や論文提出で役に立った。(抜粋)

G-3 ティーチングアシスタントの協力

年度	回答
R6	Meraki（協力したい1人、できれば協力したい8人）、化学グランプリ1人、生物オリンピック1人、英語ディベート1人

G-4 高校卒業5年目の進路予定

企業	回答
R6	NTTファイナンス／キヤノン株式会社／株式会社竹中工務店／丸紅ITソリューションズ／SCSK

大学院

年度	回答
R6	横浜国立大学大学院／埼玉大学理工学研究科物質科学専攻基礎科学プログラム／東京大学工学系研究科マテリアル工学専攻／東京都立大学都市環境科学研究科地理環境学域／芝浦工業大学大学院建築学専攻／明治大学大学院農学研究科生命科学専攻